

基本施策

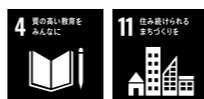
7-1

豊かさを育む 文化芸術の推進

目標
(目指す姿)

誰もが文化芸術に親しみ、創造できる環境を整えることにより、市民の心の豊かさを育むとともに、まちの賑わいにつなげることを目指します。

SDGs 関連するゴール



I 現状と課題

- セージ・オザワ 松本フェスティバル(OMF)や信州・まつもと大歌舞伎、草間彌生作品など、優れた文化芸術を国内外へ発信するとともに、まちなかの賑わいを創出しています。一方で、市民意識調査によると「音楽や芸術に触れ親しんでいる」市民の割合は、18～39歳では増加傾向ですが、65歳以上では減少傾向にあり、文化芸術に触れる機会の充実が必要です。
- アーティストと市民が直接関わる機会を増やすことや、アーティストを育成するような教育との連携が望まれます。
- ボランティアをはじめとした多くの市民が関わることで文化芸術活動は支えられていますが、ボランティア組織の登録者の減少や高齢化が進み、新規登録者の確保など、持続可能な運営体制の維持が課題となっています。
- 市民活動を一層促進するため、文化芸術に関わる人材の育成が課題です。グローバルな視野と感性を持つクリエイティブな人材の育成を図る必要があります。
- 国際文化観光都市として、地域の子どもや若者が、文化芸術を通して様々な国の人たちと交流を深められる機会の創出が期待されます。

I 重点戦略

ゼロカーボン

- 文化施設における再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化

DX

- 情報発信のデジタル化
- チケットのデジタル化、キャッシュレス化
- xR (VR, ARなど)の活用

I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
文化施設(まつもと市民芸術館、音楽文化ホール、鈴木鎮一記念館、波田文化センター)の利用者数	253,815人	255,000人
OMFに関する参加型プログラムの実施件数	8件	10件
OMFを鑑賞して、自分も音楽などの文化・芸術活動をやってみたいと思った人の割合	62.9%	73%
美術館のコレクション展観覧者数	143,390人	150,000人

I 施策の方向性

●文化芸術に触れる機会の充実

幅広い分野におけるアウトリーチ事業の実施により、市内各地で創造性を育む多彩な文化芸術事業を推進します。

●音楽に親しめる環境づくりの推進

OMFの開催に合わせて、市内各施設での特別出前コンサートなど参加型のプログラムを実施し、音楽が身近にあることを実感できる取組みを推進します。

●文化芸術環境の充実

文化芸術活動者のニーズを把握し、活動のより一層の充実と多彩なアート活動の展開につながる支援を(一財)松本市芸術文化振興財団と連携して行い、文化芸術環境の充実を図ります。

●国際文化観光都市の実現

東アジア文化都市事業*1を契機に、文化芸術、クリエイティブ産業、文化観光を振興していけるよう、様々な分野と連携した事業展開につなげます。

●美術館を核とする文化芸術の一層の推進

鑑賞、表現、学習、交流の4つの柱により、バランスの取れた企画展やコレクション展示を開催し、文化芸術のまちとしての松本の魅力を国内外へ発信します。

●中学校部活動の地域展開に向けた文化芸術活動の環境整備

中学校部活動の地域展開を踏まえ、子どもたちが身近な地域で多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、必要な環境整備に取り組みます。

主な事業

- 市民との協働による文化芸術活動事業
- 松本まちなかアートproject事業
- 国際音楽祭推進事業
- 文化芸術推進中間支援組織設置事業
- 東アジア文化都市事業
- クラフトのまち推進事業
- 草間彌生顕彰事業
- 美術館展覧会事業
- 部活動の地域展開促進事業

関連計画

- 松本市文化芸術推進基本計画
- 松本市教育振興基本計画
- 松本市部活動地域移行推進計画

【用語解説】*1 東アジア文化都市事業 日中韓3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、様々な文化芸術イベント等を実施することにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指す事業

基本施策

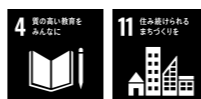
7-2

歴史・文化遺産の 継承と活用

目標
(目指す姿)

歴史・文化資産の保存と魅力の向上を図り、教育・まちづくり・観光等に活用することで、後世に継承することを目指します。

SDGs 関連するゴール



I 現状と課題

- 松本市は、先人の努力によって今日まで引き継がれてきた多くの歴史・文化遺産を有しています。これらを守り継承していくとともに、大切な資源として活用を図っていくことが求められています。
- 松本市の歴史や文化遺産について市民が学び、自らが市内外へ松本の良さを伝え、広げていくことが重要です。
- 文化遺産の魅力を伝えることは、文化の保存・継承への理解につながるとともに、観光の振興と地域の活性化をもたらし、これによる経済的効果を文化遺産の保存に再投資する持続可能な好循環を創出します。こうした文化観光の推進は、豊かな歴史と文化遺産を有する松本市の強みとなります。
- 松本市のシンボルであり市民の宝である、松本城の恒久的保存や次世代への継承のため、調査研究や世界遺産登録に向けた機運醸成の更なる取り組みが必要です。
- 松本城天守等耐震工事中の観覧環境の整備と来訪動機低下への対応が必要です。
- 市民意識調査では、「伝統や文化の保存・継承に取り組んでいる」市民の割合が15.9%にとどまっています。また、文化財所有者や維持管理の担い手の高齢化、地域の伝統行事の後継者不足が課題となっており、地域の文化財、歴史、伝統行事等について、多様な担い手の確保が必要です。

I 重点戦略

ゼロカーボン

- 文化遺産等観覧時の公共交通機関利用による車移動の抑制

DX

- ICTを活用した多様な学びや機会の創出
- 情報発信の強化、充実
- デジタルを活用した記録、継承、コンテンツの造成

I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
指定等文化財件数	384件	400件
国指定文化財の保存活用計画・整備計画の策定件数	10件	13件
市民学芸員数(累計)	136人	180人
まつもと文化遺産認定件数	9件	12件

I 施策の方向性

- 松本城の一体的な保存・活用整備の推進**
保存と活用の2つの視点で松本城の整備を進め、文化財としての保存や観覧環境の整備、来場者の安全確保を進めるとともに、世界遺産登録などの取組みにより次代へ継承します。
- 国宝旧開智学校校舎の保存と活用**
「学都松本」を象徴する文化財として、周辺環境を含めた整備と教育文化財としての積極的な活用を進めます。
- 国史跡等の文化財の計画的な整備**
国史跡の小笠原氏城跡や弘法山古墳などの整備を計画的に推進し、関連事業の開催により文化財の理解と郷土への愛着の醸成を図るとともに、全国有数の史跡として保存・活用を図ります。
- 博物館を核とした松本まると博物館構想の推進**
市域全体を「屋根のない博物館」と捉え、博物館本館及び分館で市民学芸員及び市民ガイド、友の会等、多様な市民との協働により普及・公開活動を実施し、歴史・文化・自然への関心を高めます。
- 文化財を活用した地域づくり**
まつもと文化遺産*1に認定された保存活用団体などとの連携により、講座や見学会などの実施を通じて文化財の魅力を発信し、次代を担う人材の育成及び地域の伝統や文化の継承につなげます。また、文化財の公開を通じた文化観光の推進を図ります。

主な事業

- 松本城南・西外堀復元事業、堀浄化対策事業
- 松本城天守・黒門耐震対策事業
- 石垣対策事業、サイン・動線計画策定事業
- 松本城世界遺産調査研究・普及啓発事業
- まると博物館構想推進事業
- 小笠原氏城館群史跡整備事業
- 史跡弘法山古墳再整備事業
- まつもと文化遺産活用事業

関連計画

- 松本市教育振興基本計画
- 松本市歴史文化基本構想
- 松本市文化財保存活用地域計画
- 国宝松本城天守保存活用計画
- 史跡松本城保存活用計画、同整備基本計画
- 松本まると博物館構想
- 史跡小笠原氏城跡保存活用計画、同整備基本計画
- 特別天然記念物白骨温泉の噴湯丘と球状石灰石保存活用計画、同整備計画

【用語解説】*1 まつもと文化遺産 市民が自分の住む地域に誇りを持ち、歴史や文化を活かしたまちづくりを進めるため、地域で保存活用されている関連文化財群(歴史的・地域的関連性に基づき、一定のまとまりを持つ複数の文化財)の中から基準を満たしたものを認定する制度

基本施策

7-3

スポーツを楽しむ 環境の充実

目標
(目指す姿)

生涯にわたりスポーツに親しみ活動することで、健康増進や交流人口の拡大を図り、活力あるまちの実現を目指します。

SDGs 関連するゴール



現状と課題

- 誰もが生涯にわたって「する」「みる」「支える」スポーツに親しみ、関心を持ち、様々な分野から多くの人々がスポーツに参加することが理想であり、その実現に向けて参加する機会の創出と環境づくりが必要です。
- 障がい者をはじめとした多くの人々が、スポーツを通じて社会参画を実現することが重要です。スポーツに親しむ場において、障がいの有無、年齢、性別、国籍等の違いを超え、多様性を尊重し合える社会の実現が求められます。
- スポーツを競技場で観戦する市民は減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症の拡大を背景としたスポーツ離れも関係していると考えられます。
- 中学校部活動の地域展開が始まり、子どもが学校以外でスポーツに親しむ機会が増えています。
- スポーツ施設は安定した利用があるものの、老朽化が進んでおり、多様な世代が快適に利用できる施設整備と、安全性を確保した計画的な維持管理が求められます。計画的に改修・整備を進め、多様なニーズに対応したスポーツ環境の提供が必要です。

重点戦略

ゼロカーボン

- スポーツ施設における再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化

DX

- デジタルを活用した、集まらずにスポーツする機会の提供
- デジタルを通じて「みせる」スポーツに適応した施設環境整備
- シェアリングエコノミー(官民のスポーツスペースのシェアリング)

成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
スポーツをしている市民の割合	49.5%	56%
パラスポーツ体験会の年間参加者数	455人	600人
市内の競技場(施設)でスポーツを観戦した人の割合	20.1%	26%
体育施設年間利用者数	964,506人	965,000人
スポーツ環境の満足度(施設、指導者、イベント等)	14.7%	21%
スポーツ関係のボランティア活動の実施率	5.6%	11%

施策の方向性 ●市民が主体的、継続的にスポーツに触れる機会の創出

障がいの有無や年齢、性別、国籍にかかわらず、多様な「する」「みる」「支える」スポーツを生涯にわたって楽しむことができる環境の実現を目指します。

●スポーツによる交流人口の拡大と地域の活性化

信州やまなみ国スポ・全障スポ2028や地域特性を活かした多彩なスポーツイベントのほか、プロスポーツチーム等と連携した事業を開催することにより、市内外の交流人口の拡大と地域の活性化につなげます。

●子どもがスポーツに取り組める環境整備

子どもたちがスポーツに親しみながら、体力や運動能力の向上に取り組むことができるよう、中学校部活動の地域展開などを推進し、地域社会の中で多様なスポーツ活動に触れられる機会を創出します。

●多様化するスポーツ種目に対応する施設の充実

アーバンスポーツなど新たな種目の普及と市民ニーズの多様化に対応するため、利用者が安心して利用できるスポーツ施設の改修・整備を進めます。

主な事業

- 市民スポーツ大会・各種スポーツ教室の開催
- ファミリースポーツカーニバルの開催
- パラスポーツ普及啓発事業
- 松本ローズカップの開催
- スポーツイベントの開催
- 信州やまなみ国スポ・全障スポ2028の開催
- プロスポーツ振興事業
- 部活動の地域展開促進事業
- スポーツ施設の計画的な整備

関連計画

- 松本市スポーツ推進計画
- 松本市教育振興基本計画
- 松本市部活動地域移行推進計画
- 松本市自転車活用推進計画

基本施策

7-4

変化する時代に対応した観光戦略の推進

目標
(目指す姿)

地域資源を活かした観光コンテンツを創造するとともに、社会の変化がもたらす新しい旅行需要を取り込み、観光の発展を目指します。

SDGs 関連するゴール



I 現状と課題

- 松本市の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に回復しているものの、人口減少により国内市場の縮小が進んでおり、高付加価値化と量から質へのシフトが求められます。
- 「市民が幸せに暮らしている地域は、それ自体が観光客を呼び込む魅力を持つ」という視点で、地域そのものの魅力を高める観光戦略が必要です。
- 外国人旅行者宿泊者数は急激に増加しており、市民生活との調和を望む声があります。
- 文化資源で地域を活性化させ、文化に再投資する好循環を生み出す「文化観光推進法」により、松本市でも芸術・文化施設等を観光資源と捉えて活用する文化観光政策を進め、観光産業の推進と地域経済の活性化につなげることが期待されます。
- 国内外へのアプローチや観光コンテンツの販路拡大に向け、専門人材を活用した体制強化が求められます。
- 信州まつもと空港の冬季(12月～2月)の利用率は、低下する傾向にあり、年間を通じた利用の平準化が求められます。
- 令和8(2026)年6月導入の宿泊税を活用するとともに、松本観光コンベンション協会との役割分担の下、観光ブランディングを進める必要があります。

I 重点戦略

ゼロカーボン

- 移動手段の脱炭素化
- まつもとエコ旅宣言*1に基づくワンウェイプラスチック削減の実践
- サステナブルツーリズムの推進

DX

- 情報発信の強化、充実、観光案内のデジタル化
- スマートリゾートの実現(MaaS、キャッシュレス、ワーケーション)
- デジタルマーケティングの強化、デジタルツイン、xRの活用

I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
訪日外国人旅行者一人当たり宿泊時観光消費額(再掲) <small>地方創生</small>	44,582円	47,120円
国内旅行者一人当たり宿泊時観光消費額(再掲) <small>地方創生</small>	52,685円	55,840円
訪日外国人旅行者満足度(「満足」の割合)	89.1%	92%
国内旅行者満足度(「満足」の割合)	56.2%	75%
信州まつもと空港定期利用率	札幌線 81.6%	札幌線 85%
	福岡線 72.9%	福岡線 75%
	神戸線 65.9%	神戸線 70%

I 施策の方向性

●持続可能な観光地づくりの推進

長期滞在の促進や旅行者1人当たりの消費単価の上昇による消費額増加など、高付加価値化や量から質へのシフトを進め、持続可能な観光地づくりを推進します。

●冬季の魅力発信と的確なターゲットに向けた情報発信

冬季ならではの魅力に特化した施策を継続することで、観光需要の平準化を図るとともに、明確なターゲット設定を行い、個々のニーズに合った旅マエ、旅アトの情報提供を促進します。

●世界から人を呼び込む戦略的なプロモーションの実施

滞在期間が長く消費額の高い旅行者の誘客を強化し、受入環境の整備を進めるとともに、ターゲット市場となる東南アジアやオーストラリアなどからの誘客を増加させるため、情報発信や現地プロモーションを強化します。

●信州まつもと空港の活用及び利用促進

就航先の都市やその周辺都市でのPR活動の充実により、観光閑散期の冬季を中心とした利用促進と、年間空港利用率の向上を目指します。

●定量データの活用と観光DXの推進

データの継続収集・分析・活用により、データに裏付けされた施策を推進するとともに、AI等の最新技術やICTを活用した観光のDX化を推進します。

●観光ブランディングの推進

松本観光コンベンション協会と役割を分担しつつ、松本ならではの価値を一層磨き上げ、観光ブランディングを推進します。

主な事業

- 松本・高山高付加価値な観光地づくり推進協議会事業
- 北陸・飛騨・信州3つ星街道観光協議会事業
- 城下町松本フェスタ推進事業
- 持続可能な温泉地づくり事業
- 国内誘客プロモーション事業、海外誘客プロモーション事業
- 白馬村・長野市インバウンド観光連携事業
- 就航先都市誘客促進事業
- まちなか観光DX推進事業
- 観光データ調査分析事業

関連計画

- 松本市観光ビジョン

【用語解説】*1 まつもとエコ旅宣言 あらゆる場面で使い捨てプラスチックの削減に取り組む中で、「ワンウェイプラスチックに頼らない持続可能な観光地」を目指し、令和4(2022)年11月、宿泊事業者とともに持続可能な観光スタイルを発信することを宣言

基本施策

7-5

世界に冠たる山岳リゾートの実現

目標
(目指す姿)

旅行者の満足度を高め、リピート化や滞在型につなげるため、世界水準の観光資源を活かし、山岳リゾートの実現を目指します。

SDGs 関連するゴール



I 現状と課題

- 松本市は、上高地や乗鞍高原、美ヶ原高原など世界に誇れる美しい山岳地帯を有し、年間を通じて220万人以上の観光客が訪れています。環境保全の取組みや安全登山、デジタルを活用したプロモーションなどの情報発信力を強化する必要があります。また、適切な維持管理による経済・社会・環境への影響を十分に考慮した持続可能な山岳観光地域づくりが必要です。
- 増加する外国人旅行者の満足度向上を目的に、各施設における受入環境の整備が必要です。
- 地域の魅力を伝えられるガイド人材、特に外国語に対応可能な人材が不足しています。
- 旅行者の回遊性の向上を目的に、市街地と山岳エリア、山岳エリア間を結ぶ交通アクセスを充実させるための運行事業者も含めた持続可能な体制づくりが求められます。また、外国人旅行者を中心に、歩く旅の需要が高まっており、地域を巻き込んだ環境整備や情報発信が求められます。
- 上高地では、傑出した自然景観や豊かな生物多様性といった自然環境を保全しつつ、安全で適正な利用環境整備を進める必要があります。新たな課題として、災害の激甚化やニホンジカの侵入、外国人旅行者のゴミ処理問題、不慣れな登山客増加に伴う救助案件の増加なども発生しています。
- 乗鞍エリアでは、比較的気軽に3,000m級の山に登ることができる一方で、日帰りの利用者が多くなっています。乗鞍高原内の草原やトレイル、滝など魅力的な観光地の認知度を向上させることで滞在日数増加を狙うことが求められています。
- 美ヶ原エリアでは、冬季を含む利用拡大に向け、受入施設の整備、アクセス道路の除雪体制の整備、県道狭あい区間の道路改良が必要です。

I 重点戦略

ゼロカーボン

- 豊かな自然環境を活かした再生可能エネルギーの創出
- ゼロカーボンパークの整備推進

DX

- デジタルプロモーションの強化
- 山岳地帯のデジタル化(MaaS、キャッシュレス、通信網、ワーケーション)
- 山岳情報・災害危機管理情報発信のデジタル化

I 成果指標

指標	現状値(R6)	目標値(R12)
上高地入込客数	1,530,200人	1,660,000人
乗鞍入込客数	361,000人	394,000人
美ヶ原高原入込客数	421,200人	558,000人

I 施策の方向性

●多様なニーズに応える魅力の創出と受入環境の整備

山の楽しみ方の多様化に合わせた新たな魅力の掘り起こしと、増加する外国人旅行者への対応、近隣観光地との広域観光化など滞在型観光コンテンツの充実により、多彩な受入環境を整備します。

●情報発信の強化と持続可能な観光の推進

デジタルツールを活用して、安全登山、山岳環境保全、山岳エリアの魅力等の情報を積極的に発信するとともに、経済・社会・環境への影響を十分に考慮した持続可能な観光地を目指します。

●ガイド人材の育成や歩く旅の推進

外国語対応可能で地域の魅力を伝えられる有償ガイドを育成し、旅行者の満足度向上を図ります。山岳エリアや市街地に点在する魅力を歩いて巡るための環境整備や情報発信を推進し、訪問客の長期滞在を促すとともに、訪問客との交流を通じて、市民のシビックプライド醸成を図ります。

●各エリアを結ぶ交通アクセスのシームレス化

山岳エリア間や市街地と山岳エリアを結ぶ交通アクセスのシームレス化を目指した整備を推進するとともに、利用者の利便性向上を図ります。

●世界水準の山岳リゾート「上高地」の実現

自然環境や景観の保全と適切な管理運営を行うとともに、災害による孤立化や野生動物による被害への対策、適切な登山・観光利用などへの取組みにより、世界水準の山岳リゾートを目指します。

●自然とともにある乗鞍高原の観光促進

ゼロカーボンパークとしての持続可能な観光地域づくりや、高原内のトレイルの維持・PR、乗鞍観光センターの整備などを一体的に推進します。

●美ヶ原再生計画の推進

松本市美ヶ原再生計画に基づき、必要な施設整備等の事業化を進めるとともに、関係機関と協力し、アクセス道路の通年利用化を目指します。

主な事業

- アルプスリゾートブランディング事業
- ふるさと起業家応援事業
- 松本高山ロングトレイル整備推進事業
- 上高地焼岳火山対策事業
- 上高地対策事業、上高地保存活用推進事業
- 上高地公衆トイレ改築事業
- 乗鞍ゼロカーボンパーク普及啓発事業
- 乗鞍観光センター周辺整備事業
- 美ヶ原高原直行バス、美ヶ原魅力向上事業

関連計画

- 上高地保存管理計画
- 上高地ビジョン2014
- 松本市観光ビジョン
- 中部山岳国立公園南部地域利用推進プログラム2025
- 松本市美ヶ原再生計画